

# 体操のお兄さんの経験から学んだ 子どもとの向き合い方

～俯瞰すると、解決の糸口が見えてくる～

NHK「おかあさんといっしょ」の体操のお兄さんとして活躍された小林よしひささん。「よしお兄さん」の愛称で親しまれ、歴代最長となる14年間務めたのちに昨年3月、惜しまれつつ番組を卒業されました。番組を年間220本以上、収録する中で、毎回顔ぶれの違う子どもたちとの一期一会を大切にされてきたといいます。そんな小林よしひささんに、子どもとの接し方、向き合い方を伺いました。



子どもに大人気の体操の歌「ブンバ・ボン！」でのアルパカのポーズ

**小林さんは、埼玉県ふじみ野市の出身ですが、小さい頃の思い出をお話いただけますか。**

雑木林や茶畑が点在する自然豊かなところで、いつも外で遊び回っていたことを思い出します。近くの体育館で行われていた体操教室に通うようになったのが、体操との出会いです。そこは難しい技術の習得が目的ではなく、遊びの延長のような楽しい教室で、地域の子どもたちが気軽に参加していました。また、この体育館には剣道場があり、私は剣道も習っていました。

身体を動かすことが大好きな子どもに育ち、こうして仕事に活かすことができたのは、ふじみ野市の恵まれた環境のおかげです。また、体操などのスポーツを習うことで、学年の異なる友人ができ、地域の大人の方とつながることができました。それぞれの地域にある環境を活かしながら、スポーツの取り組みを増やしていくと、住民同士がつながる機会もどんどん増えていくと思います。

**現場で泣きやまない子どもには、どのように接したのでしょうか。**

そつと手をつないで、子どもたちの輪の中に連れてくるといふ対応をしましたが、泣きやんではくれません。子どもの心が動いていないのに、無理に連れてきたからだと考えました。そこで、より一層楽しく遊んでいる姿をその子に見せて「あ、面白そうだな、中に入ろうかな」という気持ちを引き出すように努めました。子どもの心が動いて、自分の足で一歩踏み出すことができれば、あえて手をつなぐなくても、涙が止まります。

また、子どもは一人一人、嫌だと感じることや面白いと感じることが異なります。せつかく収録現場に来たのに、離れたところでじつと座って見ている子がいたのですが、その子は「今日は楽しかった」と笑顔で帰っていったのです。その子なりの楽しみ方があるので、一人一人がどう感じているのか、それをよく観察し、見極めることが大切だと学びました。

**私生活では、2018年に娘さんが誕生し、父親として熱心に育児に取り組んでいらっしゃるのでしょうか。**

私は、おむつ替えや入浴だけでなく、洗濯などの家事も行っていきます。特に料理が好きで、食育について深く学びたいと考え、妻の妊娠を機に「幼児食インストラクター」と「食育アドバイザー」の資格を取得しました。離乳食もよく作って食べさせていきます。

子どもの成長のスピードがとても速い中、子どもと接する育児の時間は私にとってかけがえのないものです。父親の育児は子どもの成長にもつながり、妻をケアすることにもつながります。良いことづくめなので、ぜひ男性の皆さんも育児に取り組んでください。男性の育児参加が当たり前のことになり、イクメンという言葉が消えていくことを望んでいます。

**来年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。子どもたちが運動や体操に触れる機会が増えると思いますが、どのような所に注目していますか。**

学生時代に社会体育(※)を学び、障害者スポーツに触れる

**小林さんはNHK「おかあさんといっしょ」で「よしお兄さん」の愛称で人気を集め、在任期間14年という歴代最長記録を残して昨年、卒業されました。長く続けられた秘訣を教えてください。**

最後まで自身のモチベーションを高く持ち続けられたことが大きな要因だったと考えています。「おかあさんといっしょ」は年間220本ほど収録しますが、視聴者の皆さんには同じ内容を繰り返し見ているように見えます。しかし、参加する子どもにとっては「今日が最初で最後」であり、私と子どもとの出会いも「今日が最初で最後」です。そのように一期一会を大切に考えると、集中力が途切れることなく、毎日新たな気持ちで取り組むことができました。

また、収録現場では、毎日のように事件やハプニングが起きて対応を迫られます。「どうしたら、うまく対応できるだろうか」と、考え続けた14年間でもありました。

**収録時間は1時間弱ですが、短い時間の中で、どのように子どもとの関係性を築いたのですか。**

慣れないうちは、子どもに一生懸命に声掛けし、自分のエネルギーを子どもに注ぎたいと必死でした。ところが泣いている子の笑顔を引き出すことはできませんし、母親のそばを離れようとしないうちもいます。そこで一歩退いて、俯瞰して見てみると、私から一方的にエネルギーを注いでいるだけで、子どもたちからの発信を何も受け取っていないことに気付いたのです。子どもが発信している信号をしっかり受けとめ、その信号に返すように心掛けたところ、子どもたちが楽しそうな表情を見せてくれるようになり、私も精神的に楽になりました。

また、体操のお兄さんは子どもたちの先頭に立って指導する存在ではなく、近所のお兄さんのように、子どもの中に入っていて、同じ方向を見ながら一緒に遊ぶ存在なのです。そういった意識を持つことも、関係性を築く上で大切だと実感しました。

機会がありましたので、パラリンピックには注目しています。

障害者スポーツは、障害の有無に関係なく、誰でもみんなが同じラインから始め、楽しむことができるスポーツなんです。体験や触れる機会も多くなるといいと思います。

そうしたきっかけから、子どもたちには、得意・不得意があったとしても、運動やスポーツを「好き」になっただけです。運動や体操は、健康にもつながっているから、「好き」「楽しい」と思えることは、一生の財産になると思います。

**最後に、地域の子どもたちを支えている福祉関係者に向けてメッセージをお願いします。**

体操のお兄さんの経験を通して感じたことは、3歳児といえども自我がしっかり形成されているので、一人の人として対等の立場で接することが必要だということです。そして子どもの気持ちを知るためには、その子の好きなものを、好きなことを見つけて一緒に遊んで楽しみを共有してみてください。遊びには大きなパワーがあるので、支援する際の鍵になると思います。そして「うまくいかない」と壁にぶつかったときは、その問題を俯瞰してみてください。きっと解決の糸口が見えてくるはずです。

(※) 学校体育以外の体育の総称。

## Profile

タレント

小林よしひささん



埼玉県ふじみ野市出身。日本体育大学卒業後、NHK「おかあさんといっしょ」11代目の体操のお兄さんとして活躍し、2019年に卒業(在任期間14年は歴代お兄さんの中で最長)。現在も「よしお兄さん」の愛称で子育て家庭に親しまれている。卒業後は浅井企画に所属し、テレビ番組や子育て・体操のイベントなどで活躍している。また、自身も長女の子育てに奮闘している。

- YouTubeチャンネル「よしお兄さんとあそぼう!」
- 小林よしひさオフィシャルブログ  
<https://ameblo.jp/kobayashi-yoshihisa/>